

第14回 夢の描き方

診察室には時々、中学・高校生が体調不良でやってくる。朝起きた時に胃痛や下痢、頭痛で学校に行けないのだと言う。中には、長期間登校していない生徒もいる。

本当に何かの病気で症状を訴えている場合も稀にあるが、原因を追究すると多くが人間関係の問題よりも、「勉強嫌い」なのである。特に、英語と数学で落ちこぼれる。結果、学校に行く理由が見つからないのだ。学校に行かないからどんどん差がついて、悪循環を繰り返す。ついに、学校に行かない理由を病気に求めて来院する。

彼らに、勉強することの意味を尋ねると、「勉強しないと自分が将来困るから」と言う。将来の夢を尋ねても、「ない」という回答がほとんどだ。幼稚園児でも、「お菓子屋さんになりたい」とか、「警察官になりたい」というのに。「自分のために勉強する」という発想では、「もうどうなってもいいや」とか、

「誰かが何とかしてくれる」などと考え始めると、いつか壁にぶつかったらそれで終わってしまう。

今、大人でも夢を描けない人が多いように思う。「美味しいものを食べたい」とか「旅行を楽しみたい」とか取り留めのない願望はしょっちゅう描く。けれど、「自分が何者であるか」を問うたとき、それは「どんな夢を心に描いているか」と同義になるのではないだろうか？自分が幸福になり、他の人も幸福になるような夢を描き、自分が困らないだけではなく、世の中を明るくするために勉強していると心から言えるなら、学校に行く理由はそう簡単には見失わないはずだ。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15 きむら内科クリニック 麻生区 [検索](#)